

第二十九回がん哲学塾

ニュースレター

発行日：2021年 3月15日

神戸薬科大学 薬学臨床教育・研究センター

E-mail:juku_0307@yahoo.co.jp

3月6日(土) 新型コロナウイルス感染対策のため、
Zoomにて第35回メディカルカフェを開催しました。

樋野先生の講演・メディカルカフェに参加して

神戸薬科大学 薬学臨床教育・研究センター

4回生 北夏実

今回のメディカルカフェは樋野先生の講演がありました。樋野先生の講演の中で特に心に残った言葉は『どんな環境でも自分らしく全力で生きていく。できるなら自ら器を作る。』でした。人に作ってもらった場所で自分らしく生きることも大切だけれど、自分がしたいと思っ

ていることがあるならそれを実行できる器(場所)を作るべきだという先生の言葉は今の私にとってかなり大きな言葉となりました。卒業研究の関わってくるがん教育についてまとめていくうちに自分が将来したいことや今現在したいことが見付き、今はとても楽しいです。何かを進めていくうちに、これからもしたいことは沢山見つかると思います。私はどちらかというとしたいことがすぐ見つかるタイプなので、自ら率先して場所を作り実現できるように頑張りたいです。場所を作ることも実現することも大変なことだと思いますが、樋野先生のお話を聞いて諦めずに頑張りたいなと思えました。

メディカルカフェではチーム医療のお陰で気軽に相談できる人が増えたという話題が私の中では1番心に残っています。授業では聞くことができない患者さんの生の声を聞くことが出来ました。グループの中にいた方から薬剤師さんのお話を聞いていくと私が理想としている薬剤師像で、患者さんがいつでも気兼ねなく話しかけられるような薬剤師さんでした。チーム医療では患者さんとだけではなく、他の医療従事者との関係も大切だと思うので自分の性格を生かして頑張りたいです。

メディカルカフェに参加すると、話を聞いてくれてありがとう。実習頑張っ

メディカルカフェに参加して感じたこと

神戸薬科大学 薬学臨床教育・研究センター

4回生 徳田華歩

今回はがん哲学外来の創設者である樋野先生にお越しいただき、「医療者の使命～愛を以ってこれを貫く～」をテーマに講演してくださいました。私はアクティブラボ生のときに一度樋野先生の講演を聞いたり、樋野先生の本を何度か読む機会もあったのですが、樋野先生から発せられる言葉は魔法にかかったような気持ちにさせてくれます。“こんな考えもあるんだ！”と180度考え方が変わり、新たな気づきに繋がります。もし自分が楽しいときや苦しいとき、大きな壁にぶち当たったときに樋野先生の言葉を思い出すことで乗り越えられるのではないかと自然と背中を押してくれるような言葉の力や重みをひしひしと感じ、偉大さを改めて実感するそんな素敵な講演でした。3月20日に加古川のメディカルカフェで樋野先生の講演があるということで実際にお会いしてお話を聞くのがこれからとても楽しみです！

今回のメディカルカフェではそんな樋野先生の講演の感想であったりどのような言葉に救われたかというお話をしました。参加者の中には樋野先生の本を読んで今回このメディカルカフェで樋野先生がいらっしゃるということを知り、初めて参加して下さった方がいらっしゃいました。樋野先生に出会ったことで自分の生きる意味や死ぬということは何なのか、死生観を見つめ直す機会になったと仰っていて私もとても共感しました。

又、参加していたがんサバイバーの方で「優先順位を下げるという言葉にハッとさせられた」とお聞きして、この言葉で気持ちが楽になるというか、がんサバイバーさんだけでなく全ての人に通ずる言葉だなと改めて感じ、樋野先生から紡がれる言葉の処方箋で多くの人が救われているのだなと改めて感じました。その他にもこのカフェで少しでも不安が取り除ければと思いがんサバイバーさん自身の今の心境であったり不安に思っていること、再発防止をするために行っていることなどたくさんお話を聞くことができました。卒業するまでの間がんサバイバーさんのお話を聞く機会の中々ないので生の声を聞くことでとても貴重な時間となりましたし、初めてファシリテーターをやって相手の伝えたい想いを引き出す難しさを感じ、とても勉強になりました。次回のメディカルカフェではもしかしたら久しぶりの現地開催になるかもしれないので、面と向かってお話できる日を楽しみにしています！

メディカルカフェに参加して

神戸薬科大学 薬学臨床教育・研究センター

4回生 笹倉健嗣

私が今回参加したメディカルカフェのグループでは、コロナ禍においてのがんサバイバーの方々の生活がどのように変わったのかについて話し合いました。

具体的には世間がコロナ禍になる前はがんサバイバーの方々のための病院内でのサロンが開かれていました。そこではがんサバイバーの方々同士でお互いのことを話したり、情報共有の場として役立っていたそうです。この話を聞くまでは私はがんサバイバーの方々は医療従事者の方々と話ができればいいたらと思うていましたが、やはり医療従事者の方々は自身が経験していなければどうしても他人事のようにになってしまうそうです。ですからがんサバイバーの方々にとっては医療従事者の方々と話し合える機会も大切ですが、同じがんサバイバー同士で話し合える方が役立つことを知りました。

そしてこのことを話してくださった方はこのメディカルカフェのような機会を設けてもらえたことは助かると思うてくださったので、むしろ感謝して下さってありがたいなと思いました。

しかしがんサバイバーの方の中には機械関係に慣れることができない方も多くいらっしやって、その方達はこのようなウェブ形式の話し合いの場に参加しづらいついて思っているらっしやると教えてくださりました。そのことを聞いてこういったウェブ形式は遠く離れた場所からでも話し合えるという長所もある一方で、機械関係に慣れていない方も気軽に参加できるようにしないといけな改善点も見えました。



【樋野興夫先生】

1954年、島根県生まれ。

順天堂大学名誉教授。

新渡戸稲造記念センター長。

2008年「がん哲学外来」を開設。

一般社団法人がん哲学外来理事長。

高松宮妃癌研究基金学術賞受賞。

著書に『いい覚悟で生きるか』ほか

顧問：樋野興夫

塾頭：沼田千賀子

副塾頭：横山郁子

塾生： 恵美良太、園部愛梨、渡邊理乃、北夏実、笹倉健嗣、徳田華歩、森山由理